

令和4年度 学校評価 中間評価

川北町立橋小学校

	評価項目と具体的取組	主担当部	評価指標	達成度判断基準	備考	評価	取り組み状況	改善に向けて
I 組織的な 学校運営	【学校教育ビジョンの具現化】 学校運営委員会や校務委員会と職員会議を密接に連携させ、学校教育ビジョンのもと、チーム学校を常に意識し、組織的・主体的に学校運営に参画する。	総務部	【満足度指標】 学校教育ビジョンを意識しながら、それを実現すべく組織的・主体的に学校運営に参画している	組織的・主体的に学校運営に参画していると回答する職員の割合が A 90%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 教員アンケート	A	とてもあてはまるが80%、あてはまるが20%だった。校長ビジョンを全体で共有し、各主任を中心に参画意識をもって職務にあたっている。若手の職員が多いが、管理職やベテランとの報連相を心がけている。	職員が、それぞれ主体的に職務にあたっているよう、校務委員会などで、今後の見直しをもつとともに、進捗状況を確認しながら、PDCAサイクルを回し、校長ビジョンの具現化に努めていく。コロナ禍においては、思い切った無くなるもの、新たにチャレンジして取り組むものについては、「何のためにするのか」または「無くなるのか」を明確にする。
	【働き方改革】 業務の役割分担の適正化と組織的・協働的な学校運営に努め、ワークライフバランスを大切にしている。	総務部	【満足度指標】 職員は「ワークライフバランス」の大切にし、充実感を持って職務の遂行に努めている。	ワークライフバランスを大切に、職員は「ワークライフバランス」の大切にし、充実感を持って職務の遂行に努めている。 と回答する職員の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 教員アンケート	A	肯定的回答をした職員が90%だった。ほとんどの職員がワークライフバランスを意識し、充実感を持っているが、時間外勤務状況調査では、毎月数名が45時間を超えている。	主任等の、一部の職員に偏りがちな業務を分散させるよう、校務を整理する。支援員やスクールサポートスタッフを適切に配置し、担任業務や校務分掌事務の軽減につなげる。地域や保護者に理解と協力を求め、会合や行事等の開催の工夫をする。
II 確かな 学力の 育成	【学力向上】 基礎学力向上計画・学力向上プランの共通実践や児童に達成感を持たせられるようにするための授業改善に努め、基礎的・基本的学力の向上を図る。	教務部	【成果指標】 取組の結果、基礎学力が向上している。	ばっちり算数の合格者の割合が75%以上であった学年が A 全学年 B 5つの学年 C 4つの学年 D 3つの学年以下	7月12月2月 ばっちり算数の合格者の割合	B	ばっちり算数の合格者の割合が75%以上であった学年が5つの学年だった。計算ミスなどが見られたことと、基礎学力の定着が不十分であった。	計算ミスをなくすための見直しや基礎学力をつけるための繰り返し学習を行っていく。合格者の割合が75%以上とれなかった学年については、朝ぼつちりの時間に習熟度別にグループを分け、小グループでの学習を進め、学習内容の定着を図っていく。
	【自ら学び、考え、ともに高め合う子の育成】 児童が課題意識を持ち、主体的・対話的に学ぶ学習活動を推進し、「わかった・できた」という達成感のある授業につながる指導力の向上を図る。	教育推進部	【満足度指標】 子供が「わかった・できた」という達成感のある授業づくりを通して指導力が向上したと感じている。	学校研究の取り組みを通して指導力が向上したと感じる教員の割合が A 100% B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	7月12月 教員アンケート	B	「学校研究の取り組みを通して指導力が向上したと感じる」という項目に対して そう思う……………38% だいたいそう思う……………50% あまりそう思わない……………13% であった。	子供が「わかった・できた」という達成感のある授業づくりを行うために、より学習課題の吟味を行っていく必要があると感じ、学習課題作成シートを活用した授業づくりを学期途中から始めた。途中からの取り組みであったため、有効活用に至らなかった面があったので、今後は授業力の向上につなげていきたい。2学期は教員間で授業を参観し合って交流する取り組みを進めていき、指導力の向上につなげていきたい。
	【読書の量の向上】 図書館司書と連携し、毎月おすすめの本の達成状況を知らせ、振り返ることで、主体的な読書活動に向けたしあかけの工夫を図る。	教務部 (図書担当)	【成果指標】 学年のおすすめの本を読むことが出来ている。 (1・2年20冊、 3年15冊、 4～6年10冊)	学年の「おすすめの本」を読み終えた児童の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	おすすめの本の冊数 7月(2年7冊、1・3年5冊、4～6年4冊) 12月(1・2年14冊、3年10冊、4～6年7冊) 2月(1・2年20冊、3年15冊、4～6年10冊)	C	おすすめの本、児童の1学期のめあて達成状況は全校児童139人中117人で達成率は84%。	読書への関心の低い児童がおすすめの本を読んだり図書館利用をしたりするように、担任による声かけだけでなく、読書旬間や教師による読み聞かせ、図書委員による読み聞かせや楽しい企画も準備して多くの児童が読書意欲を高めるように働きかけていく。また、国語の授業とつなげた並行読書も充実させていく。
III 豊かな 人間性 の育成	【みんなが安心できる楽しい学校づくり】 学校が安心でき、楽しいと感じられるよう、生徒指導の3機能を意識した授業や行事で、児童を認め価値付ける。	生徒指導部	【満足度指標】 児童が、楽しく学校生活を送っている。	「学校は楽しい」と回答した児童が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかというあてはまる場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	A	「学校は楽しい」と回答した児童の割合は91%であった。授業や行事で児童の成長を認めたり、価値付けたりすることで、より「楽しい」と感じる要因になっている。また、教員同士で児童の情報共有をすることで、複数の教員で児童をサポートすることができている。	行事では、活動後に児童の成長を認めたり、価値付けたりすることを引き続き意識して行う。授業では、生徒指導の3機能を生かした授業づくりに向けて、周知徹底を図り安心できる学級・学校づくりに向けて、気になる児童を複数の教員でサポートできるように、毎月の児童理解の会での報告に加え、生徒指導主事が中心となり担任や級外の先生と協力し対応に努めていく。
	【道徳教育の充実】 道徳の時間を要として、構造的な板書や発問、ふり返りの工夫をし、道徳教育の充実を図る。	保健安全 ・体育部 (道徳教育 推進)	【満足度指標】 自分の思いや考えをもち、友達と話し合うことができた」と感じている児童の割合が、 A 90%以上 (いつもしたく時々の場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	「自分の思いや考えをもち、友達と話し合うことができた」と感じている児童の割合が、 A 90%以上 (いつもしたく時々の場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 道徳アンケート	B	「自分の思いや考えをもち、友達と話し合うことができた」と感じている児童の割合は89%であった。道徳ノートの活用や板書の工夫、心情円盤などの思考ツールを用いることで、子どもたちの考えが整理された。そのことにより、自分の考えを他者に伝えるきっかけ作りになっていた。	今後も全員が自分の考えを言えるような授業構想やあたたかい雰囲気作りを行う。自分の意見・考えをもつ時間をとる。「友達の意見から学ぼう」とする聴く姿勢、「自分のため、友達のために意見を言おう」とする話す姿勢を大切にしていける。
	【児童の自主性・主体性の育成】 よりよい学校・学級づくりに、児童会や委員会、学級会活動、学校行事等に自主性・主体性をもって取り組める児童の育成に努める。	生徒指導部	【満足度指標】 児童会、委員会、学級活動等において、児童はよりよい学校・学級づくりに進んで取り組めたと感じている。	よりよい校風づくりのために進んで取り組めたと感じている児童の割合が、 A 90%以上 (但しあてはまるくどちらかというあてはまる場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	A	よりよい校風づくりのために進んで取り組めたと感じている児童の割合は91%であった。行事では、事前に計画を立てたり、めあてを考え意識したりすることで、児童の主体的な参画意識につながっていた。一方、学校全体で意識することは弱かったように感じる。	行事では、児童がより主体的に取り組むことができるように、児童が考えためあてを意識させ、めあてが達成できたかをふり返っていく。また、児童自身で計画を進めていくことができる場面を設定し実行することで、主体的に取り組むことができる児童の育成に努めていく。
IV 健やかな 体の 育成	【体力の向上】 体育の授業や児童の活動を主とした「体力作り1校1プラン」、「スポチャレ」の取組を通して体力の向上を図る。	保健安全 ・体育部	【成果指標】 11月のミニ体力テストにおいて、立ち幅跳びの記録が、次の学年のR3年度県平均を上回る児童(4～6年生)が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	11月のミニ体力テストにおいて、立ち幅跳びの記録が、次の学年のR3年度県平均を上回る児童(4～6年生)が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満	11月 ミニ体力テスト		11月のミニ体力テスト後、評価を行う。体育委員会主催で、立ち幅跳びの記録向上に向けた企画を行った。	体育担当から、体育の導入時でのなわとび運動やラダー運動、また、スポチャレいしかわにに取り組むよう声掛けをする。引き続き、体育委員会主催の企画も行う。
	【心身の健康】 心身ともに健康で元気に学校生活を送るために、スクールカウンセラー等の外部機関とも連携して、児童の自己肯定感を高める取り組みの充実を図る。	保健安全 ・体育部	【満足度指標】 心身の健康に関する授業とたわり活動を通して、自他の良さに気づき、心身ともに健康で、元気に学校生活を送っている。	「自分にはよいところがある」と感じている児童の割合が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上	7月12月 児童アンケート	B	「自分にはよいところがある」と感じている児童の割合は85%であった。はげまし活動で縦のつながりがあったことや体育交歓会の発表として、昼休みに多くの児童の前で技を披露したことが自他のよさに気づく要因の一つになった。	全校に養護教諭による心の健康の保健指導や人権擁護委員の方による読み聞かせを行う。高学年には、スクールカウンセラーの授業も取り入れる。全校の取り組みとして、橋郵便を行うことにより、他の学年の子からも認めてもらっているという意識をもてるようにする。
V 家庭・ 地域 との 連携	【キャリア教育の推進】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる特別授業を企画し、生き方にふれることで夢や目標を育んでいき、地域を誇りに思える児童を育てる。	教務部	【満足度指標】 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる特別授業や各教科におけるGTとの授業や地域の方とのふれ合い、地域のよさを知る機会を通して児童が学びを深め夢や目標をもっている。	特設授業やGTとの学習で地域の方とのふれ合い、地域のよさを知る機会を通して将来の夢や目標を持って感じた児童の割合が A 95%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満	7月12月 児童アンケート	C	総合的な学習での聞き取りなどから「まちの先生との学習で将来の夢や目標を持って」と感じた児童の割合が76%だった。コロナのこともあって、1年生が町の先生やGTとの学習をした経験がなく、否定的な回答が多かった。(1年生で「あてはまらない」と回答した児童の割合 96.4%)	コロナウイルス対応の為、外部の方に来ていただき特別授業をする機会が少なくなってしまうが、安全対策を行った上で、こちらから出かけて行って聞き取りをするなど機会をとらえて地域の方との学習を行っていく。実際にGTに来ていただくことが難しい場合は、オンラインでの学習ができないか検討していく。
	【社会性の育成】 社会性を身につけた児童を地域ぐるみで育成するため、あいさつを重点に、家庭・地域との連携を図り、身近な人に進んで明るいあいさつができる児童を育てる。	生徒指導部	【満足度指標】 家庭・地域や学校で、児童は進んであいさつができていく。	進んであいさつをしていると回答した児童の割合が、 A 90%以上 (あてはまるくどちらかの場合はB) B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	7月12月 児童アンケート	B	進んであいさつをしていると回答した児童の割合は88%であった。児童会が企画した「あいさつの木を育てよう」という取組では、多くの児童があいさつを積極的にしていた。あいさつをされると返すが、自分からあいさつをする児童は少ない現状がある。	あいさつをされると返そうとする児童が増えてきているが、自分からあいさつをする児童は少ない。児童会を中心に、全校で取り組む新たな企画を設定し、自分からあいさつをすることができる児童の育成に努めていく。